

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2795000260		
法人名	社会福祉法人 正福会		
事業所名	グループホーム くつろぎ・友井荘		
所在地	大阪府東大阪市友井四丁目8番5号		
自己評価作成日	平成 30年 9月 13日	評価結果市町村受理日	平成 30年 12月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ijyosovoCd=2795000260-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ijyosovoCd=2795000260-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を念頭に、ご本人様の意向を尊重し、自分らしい生活をお送り頂けるよう日々取り組んでおります。  
 施設での生活において、季節を感じて頂けるよう、レクリエーション等の工夫、外出機会の確保(散歩の実施)、中庭での四季折々の園芸への取り組みなどを行っております。また、行事などへの参加の様子などご家族の方々にもご報告させて頂き、安心頂けるよう関係構築にも努めております。入居者お一人おひとりの健康管理にも常に留意し、医師を中心に連携を図り、安心できる生活の継続にも取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に密着し貢献しようとする高い志を持つ社会福祉法人が運営するグループホームで、特別養護老人ホームを併設し、開設後7年余りの事業所です。季節の花のある中庭に面した明るくゆったりとしたリビング兼食堂には、立派な絵画や豪華な花、季節感のある貼り絵や楽しい行事写真を飾っています。職員が利用者の意思を尊重し、笑顔で優しく接し家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。利用者は優しい職員に囲まれ、美味しい食事を楽しみ、医療的な心配もなく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有・実践するように努めている。また、グループホーム独自の理念も掲げ、実践に努めている。ご家族法人理念は、定例会議での説明や研修の開催案内などに記載し、管理者・職員が様にも事業所理念を知って頂けるように玄関に掲示している。	『一、ご入居者様一人ひとりの個性を尊重し、快適かつ安心・安全な暮らしを提供します。一、我が家のような「やすらぎ」と「くつろぎ」のある生活を提供します』をホームの理念とし、明示しています。定例のグループホームミーティングや毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者がその人らしく安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の公園へのお花見や地域の夏祭りへの参加、近くのスーパーへの買い物、天候の良いときには近隣の散歩また、夏場の炎天下の際は施設内特養の入居者の方との交流などを通じて、地域と交流を図るようにしている。	近隣の2つの中学校との交流を持ち、中学校の合奏会へ参加したり、中学生の介護体験を受け入れたりしています。また、マンドリン演奏のボランティアだけでなく、近々、家族の紹介による民謡や三味線のボランティアの方を招くことになっています。 今後も地域の方と交流できる場を増やせるよう、これまで活用されていなかったホームの「交流スペース」を詩吟の練習の場として、また書道教室として開放していけるよう準備中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法などについての情報発信は、地域運営推進会議等で必要に少しでも助言となるよう話はさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月第三金曜日を、当施設の運営推進会議の日と定め、サービス提供の状況、行事等の報告と併せて、アクシデント・事故報告等も開示報告させて頂いている。尚、出席者からのご意見等はサービス向上に活かすことができるよう検討をしている。	地域の方や家族も出席し、2か月に一度開催しています。これまで、職員側からのサービス提供状況等の報告中心だった形から、ヒヤリハットや苦情等の内容も報告し、出席者から意見を得る形に見直しました。そうすることで、ホームにいる利用者のケアを、家族や地域の方も一緒に考えようとする意識が芽生え、会議での忌憚ない発言もよくもらえるようになったり、地域の方から詩吟を通じてホームと関わる新たな提案を得るなど、会議の場が活性化しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度の解釈や疑義が生じた場合には、東大阪市福祉部施設課への問い合わせを行うなど担当部署との連絡を密にし、相談や指導を受けるなど協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。また、変更届や報告書などの提出の際も、時間が許す限り持参し、担当職員と顔の見える関係性の構築に努めている。	管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また、管理者は、市の施設連絡会や地域の認知症グループホーム事業所の定例会に参加し、情報交換しています。市の認知症サポーター養成講座の運営にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>平成30年4月度の制度改正の変更点も踏まえ、身体拘束廃止に関する指針の周知徹底を図れるよう、定例会での指針の確認、現状の振り返りを常時行っている。又、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を実施し、身体拘束ゼロを標準とし取り組んでいる。</p>	<p>職員は年間計画に基づき身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束や虐待防止について学び、意識を高めて身体拘束のない介護を目指しています。前回の外部評価以降、日中の可能な時間帯につき出入口扉開錠の検討をしています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待の防止、高齢者の権利擁護に対する支援等に関する法律などの理解を深めるための外部研修への参加・内部研修を行い、虐待とみなされる行為等について具体的に学び防止に努めている。現在は特に「スピーチロック廃止」に向けて施設あげて取り組む。平成30年9月29日にも内部研修の実施を行う。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、入居者様に具体的に必要が生じた際は、ご家族様や関係者との話し合いが出来るよう、取り組めるよう心掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結の前には重要事項説明書の内容について十分説明する時間を設けており、その後契約書内容の説明を行い、契約締結をしていただくようにしている。                      法令の変更による運営規定やその他規程変更の必要がある場合には、ご家族様や入居者様に説明を行い、不安や疑問が生じないよう努めている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>                      利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者や家族様が意見や要望を申し出やすいような職員との関係構築を目指して実践している。また、ご意見箱も設置し定期的に確認している。ご意見を頂戴した場合は、定例の会議にて報告し、運営に反映できるように取り組んでいる。</p>	<p>日頃感じていることを表出しやすくするため、普段から面会時には近況報告を兼ねて職員から家族に話しかけるようにしています。また、意見や要望を伝える機会として、夏祭りなどの行事には家族も積極的に誘いするようにしています。意見箱も設置してあり、投書された意見に対しては、職員で話し合い、改善に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の定例会議の場で、管理者・ケアマネ・介護職員が一同に介し意見交換を行っている。その会議内で提案された事項について検討し、運営に反映するように通組んでいる。</p>	<p>職員は、定例のグループホームミーティングや毎日の業務を通じて業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。職員が利用者の意思を尊重し笑顔で優しく接し、家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。新任の管理者は、利用者がより一層安心してゆったりと過ごせるよう、利用者の生活に密着し、寄り添う時間を増やす工夫をしたいと考えています。職員と年2回の面談の機会があります。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績、勤務態度や状況の把握などに努め、各職員が向上心ややりがいを持って働くことができるように環境整備や条件の整備に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	職員の力量や実力を把握し、法人内研修や法人外研修など経験に応じた研修機会の提供に努めている。資格未取得の職員に対しては初任者研修の受講料補助も行っている。また、スキルアップのための介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得にも取り組むよう職員に働きかけを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会の定例会へは施設長及び管理者が参加するようになっているが、東大阪市内の事業者との定期的な交流会の場の確保は調整中。z		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、利用者様自身が困っていること、不安に思っている事はその都度確認・傾聴し、職員間で情報を共有して、安心な生活を送って頂ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族様が困っている事・不安に思っている事・要望については確認・傾聴して、職員同士で情報を共有している。またご意見箱などを設置し、良好な関係づくりに努めている。緊急の際は電話などにて対応し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入段階で、要望や必要とされているサービスについて検討し、利用者様個々に応じて、マッサージやリハビリ、訪問歯科、ドクター往診、緊急時の受診などを利用され、他のサービス利用を含めた支援対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい	利用者様のご意見・要望などを傾聴し不安・困っている事など全職員で検討・話し合い、解決策を実行する事で利用者様との信頼関係を築き、暮らしを共にする者同士の関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に相談ごと・心配な事があればいつでも話して頂ける様な雰囲気・環境作りに努め、利用者様と家族様の絆を大切にしながら、共に利用者様を支えていく事が出来る信頼関係を築く事が出来る様に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩などされた際などは施設近くに住まわれていた方と話しをされる利用者様もいるが、遠方から入所された利用者様は面会で来所される方以外は馴染みの人や場所との関係が途絶えてしまっており、関係が途切れないような支援は出来ていない。	職員は、家族からきた利用者宛てのファックスを手渡しし、利用者が手紙を書きたい時や電話をしたい時に支援しています。利用者の思いに寄り添い、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、トラブルやそれに準じる行為が起きない様に、共同生活室における席の配置や職員の配置などに配慮しながら、一人ひとり孤立せず利用者様同士が話せ、支えあえる様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）がなくなった方の情報をいつでも、状況に応じて開示出来るよう保管し、必要に応じて本人・家族様の経過をフォロー・相談や支援が出来るに様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や表情、言動から本人の思いや希望、些細な事にも気付けるように努めている。感情の表出が困難な方は、家族に相談しながら情報を得るようにしている。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いを記録し、職員間で情報を共有する努力をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、馴染みのある家具等を持ち込んで頂いたり、本人や家族に生活状況をお聞きして、安心できる環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の“今”をよく観察し、心身の状態に応じたその人らしい生活が送れるように努めている。また、一人ひとりが個々のペースで生活できるよう、支援に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向・思いを踏まえ、現状のニーズに応じたケアを職員間で話し合っって介護計画を作成している。状況により医師や看護師のアドバイスも受けている。	介護計画は6か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は定期的に個別介護計画のモニタリングをして評価しています。また、家族にも説明して介護計画の見直しにつなげています。ただ、現在作成している介護計画書の支援項目は多く、介護計画の職員への周知徹底や援助内容のモニタリング記録の取り方に工夫の余地があります。	介護計画については重点項目のみを対象を絞ることを検討されてはいかがでしょうか。また、介護計画の個別の援助項目の職員への周知徹底の仕方や、職員による日々のモニタリング記録の取り方の改善をされてはいかがでしょうか。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態の変化、気付き等を朝の申し送りやケース記録に残している。パソコンソフト上の申し送り機能を活用し、職員間の情報共有を図ると共に介護計画にも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望に応じた対応（散歩・買い物などの外出）や、個々の状態に適した対応（食事形態・排泄用品等）を柔軟に行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の夏祭りへの参加、定期的なボランティア団体の受け入れ、地元の中学校とのイベント交流等、入居者の楽しみとなっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医の確認を行う。多くの入居者がホームの協力医を主治医としており、月2回の訪問診療体制や24時間の医療体制を確保している。往診結果は面会時に家族に報告を行い、職員間では“訪問診療記録”で情報共有を図る。</p>	<p>家族の同意を得て、大半の利用者は、ホームの協力医師による月2回の訪問診療を受けています。以前からのかかりつけ医やその他の診療科目について受診する利用者には、家族の同行が原則ですが、必要の都度職員が通院介助を行っています。また、協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に些細な事でも頻繁に情報交換を行い、普段と違う何気ない様子を捉え、常時電話連絡を中心に相談・助言を受ける。情報共有を図ることで、早期発見・早期治療に繋げられる連携体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはかかりつけ医より情報提供を行い、ホームから日常生活についての情報を伝えている。また、退院時は本人や家族の意向を聞きながら、早期退院に向けて安心できる生活環境に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化及び看取りについての指針とその時点での意向を確認している。状態の低下や重度化した場合には、かかりつけ医より見解を話して頂き、医療と介護の連携での支援方針を説明し、本人や家族の希望に添えるように努めている。意向を最優先にするために、安心・安楽な環境整備や精神的ケアについての研修を実施する等、職員の資質向上を図っている。 今年度は10月24日にターミナルケアについて、外部講師をお迎えし、勉強会を実施した。	ホームは看取り実施の方針を持ち、実績もあります。職員の看取り研修も実施しています。利用者が重度化しても可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。利用者の状況の変化に合わせてその都度、利用者や家族、医師と話し合い、対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員に周知を図っている。また、研修会の参加や施設内の勉強会を通じ、職員の知識向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いによる避難誘導訓練及び職員による消火設備や機器の説明など定期的に行うようにしている。飲料水や食料などの備蓄も行い、運営指針会議を通じ地域の方への災害時の協力依頼をお願いする体制も構築しつつある。今年は特に災害が多く、マニュアルの再整備も行っている。	同一法人の併設施設と合同で、消防署の指導のもとに年2回の火災・災害避難訓練を実施しています。夜間の場合は、併設施設の人員の協力体制があり、安心感があります。また、地域の協力を得るため現在話し合っています。食料品と水の備蓄もしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の背景にある個性を理解し、一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。特に言葉遣いについては、馴れ馴れしい言葉と親しみのある言葉を混同しないように、普段から職員同士で声を掛け合いながら注意をしている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、接遇や人権、個人情報保護の研修を受け、意識の向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で利用者様自身が思いや希望を表したり出来る様信頼関係を築き、職員間で情報を共有して、ケアの方法やレクリエーションなどについて自己決定できるよう自立支援に努めている</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事・排泄・余暇・就寝・起床など総ての生活支援に関して利用者様一人ひとりの体調・状態を優先している。散歩などの外気浴なども取り入れ1日1日を安全安心・快適に暮らして頂き、我が家の様な安らぎと、くつろぎのある生活を送って頂ける様に支援をしている。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時は、利用者様自身で髪を梳かれる方は自身で行い、介助が必要な方は鏡の前で職員により梳かせて頂く。着るものに関しては自立支援に基づき利用者様自身で選んで頂く。イベントの日には明るめの物を着て頂く様支援し、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご当地メニューを取り入れたり、季節のイベントの際は特別メニューを取り入れる。食事は業者に委託しているため、一緒に作る事はないが、食事の行事を2ヶ月に1度行ない、利用者様が目の前で、厨房の職員が食材を焼いたりして作っている所を見て、楽しまれたりしている。またメニュー掲示なども行っている。	普段は併設の特別養護老人ホームの厨房から届けられるバランスの良い食事が提供されています。食事の行事では、点心づくりをフロアで見学したり、おやつの時にたこ焼きをつくったりして、出来上がるまでのプロセスやおいしそうな匂いも楽しめるような工夫を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者様の健康状態に注意しながら、食事摂取量を把握し、水分量も時間を決めて1日を通じて確保出来る様支援している。また体調不良の方が出た場合に、いつでも水分強化が出来る様に、ポカリスエットの粉末を常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方はご自身で口腔ケアをして頂き、介助が必要な方は職員が全介助・一部介助させて頂く。また、個々に合った歯ブラシ・スポンジ・口腔ガーゼなどを使用する事で、口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々で排泄のパターンが異なるため介助が必要な方は排泄チェック表を作り、定期的に時間を決めて誘導させて頂いている。誘導の時間など変更・検討が必要な利用者様は月1回の定例会議などで相談・話し合いにて決定し、清潔で安心・安全な自立にむけた支援に努めている。	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、しぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りをしています。そのことにより多くの利用者がトイレで排泄ができていて、自立の利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や水分を日頃から多めに摂って頂いたり、リハビリも兼ねた、歩く・体操などの運動をして頂くことで個々に応じた予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けは行うものの、拒否される方に関しては無理やり入浴して頂くのではなく、時間をずらす、もしくは日にちをずらして入浴して頂いている。また、湯船に入れられない方は足浴をしながらシャワーを浴びて頂くなどして、個々にそった支援を行っている。	平均して週2回の入浴を楽しんでいます。入浴を好まれない利用者についても様々な工夫をしながら週1回の入浴ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	夏場は冷房や、タオルケットな どで、冬場は布団や暖房にてそ れぞれ体温調節して頂く。また 、利用者様が休息・就寝され たい時に自身の居室に戻られ たりされる事で、休息したり安 心して気持ちよく寝られる様 な環境を提供し支援に努めて いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	利用者様が処方されている薬 の効能や効果、副作用について 服薬リストを作成し、いつ時 でも確認出来る様常備し、理 解するよう努めている。服薬 の支援については出来るだけ 見守りにて自身で服用して頂 き、服用時には職員間で誤薬 のないようにダブルチェックを 行っている。症状の変化があ れば24時間体制で往診先に 連絡しドクターより指示を受 ける事が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	利用者様のその日の体調など に合わせて、季節ごとのレク レーション・散歩・塗り絵など 定期的に行い一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援に努めている。また 個々で写真を撮り掲示をして いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のその日の体調や希望などを考慮しながら、散歩や日用品、嗜好品の買い物などの支援に努めている。またご家族様にも協力をお願いし、外食等も支援している。普段、行けない様な所については、春はお花見、秋はもみじ狩りを近くの公園にて実施する。	日常的には近隣への散歩、駅前のスーパーへの買い物に行き、季節ごとでは花見や地域の祭りに出かけています。今年から、誕生日月の利用者の希望される場所に出かける企画も始め、「ニフレル」にも行き、大変好評でした。体調により外出が難しい利用者にも、ホームの中庭や玄関先などに出て外気浴をする機会をつくり、気分転換が図れるよう配慮しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を支払うという基本的な行為の重要性について職員は理解しており、買い物などの外出の際には施設のお金を立替所持して頂くことができるように支援している。現状ではご利用者様ご自身でお金を管理、所持されているということとは行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人にご利用者様自らが電話を希望されれば、電話をして頂くように援助している。また手紙などを書かれた際には、封書にて代わりにお送りしたり、ご家族様の面会時にお渡ししたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については整理整頓し、清潔感が保てるように清掃に努め、ご利用者が快適に過ごすことができるようにしている。フロアや居室のテレビの音量などになどにも注意し、不快感を招かないように調整している。中庭からの採光を活かせるような家具や機の配置などにも配慮している。	季節の花のある中庭に面した明るくゆったりとしたリビング兼食堂で、立派な絵画や豪華な花、季節感のある貼り絵や書道作品、楽しげな行事写真等を飾っています。また、ゆったりと過ごせる複数のソファが置かれていて、落ち着いた居心地の良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになられる時は居室に戻られる方が多い。共用空間では気のあった者同士が過ごすことができやすいように、机の配置を状況によって変えたり、机を囲んで話ができやすいように工夫し、支援に努めている。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様やご利用者様と相談しながら、使い慣れた物や大切にされていた物を持ち込んでいただくようにし、ご利用者が快適かつ安全に過ごしていただけるような工夫に努めている。	居室の前には表札がかかっています。利用者は、机や椅子、整理ダンス、仏壇、時計、ぬいぐるみ、テレビ等を持ち込み、家族の写真や遺影、絵画、書道作品、花瓶や生花等を飾っていて、個性的で利用者にとって居心地の良い居室となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の居室側には手すりがあり、歩行訓練もできるように設置している。また居室には表札をつけることで、自立した生活が送ることができるよう工夫している。浴槽には別途手すりを取り付けるなど安全性の確保に努めている。		